

～2010年代運動指針の策定～

未来へ

10周年を迎える今まさにこの時こそ、これまでの活動や歴史を振り返る時であり、ここから新たな一歩を踏み出す時であります。何故今ここに我々(社)諏訪圏青年会議所が存在し、ここからどこへ向かうのか。

我々は今一度創始の想いに立ち返り、諏訪圏青年会議所ビジョンを掲げ、その実現のため歩みを進める必要があります。しかし、時代は流れ、我々を取り巻く環境も著しく日々変化しています。4LOM統合当時の背景にあった、地域主権からなる地域間競争と言った社会が今、現実のものとなりつつあります。

また、昨今の不況の中、将来に夢を描くことができず地域の限界を肌で感じています。そのような状況の中でもまちづくりに対して無関心で無責任な住民も存在しています。また、我々(社)諏訪圏青年会議所は4LOMが一つになり広域的な活動に注力するあまり、地域の皆様から青年会議所が遠く感じるようになったという声を耳にするようになりました。

以上の現状を踏まえ、我々は創立宣言文を胸に、諏訪圏青年会議所ビジョンを実現するための2010年代運動指針としまして、以下の3つのアクションを実践することにより諏訪圏独自のまちづくりを創出していきます。

3つのアクション

1. 地域と広域の共存共栄

地域(6市町村)が活性化することで広域(諏訪圏域)が活性化する。広域(諏訪圏域)が活性化することで地域(6市町村)が活性化する。地域は諏訪圏域の為に、諏訪圏域は地域の為に互いが支えあい共に生き、共に栄えるまちを目指した活動を行います。

2. 住民参画型のまちづくり

圏域住民のまちづくりへの関心を醸成し、自らのまちは自らの手で創るのだという気概を持ち、その責任と自覚のもと行う住民主導のまちづくりを行います。

3. 広域的な可能性を模索し検証する

この圏域において広域的な視野で活動することにより見出すことができるメリットを発信し、行政枠に捕らわれることなく広い視野で圏域を捉え、諏訪圏域の可能性を見出して行きます。

この3つのアクションを実践し、諏訪圏独自のまちづくりを創出することで住民・行政と共に諏訪圏域の将来を夢描くことができると信じます。そして、その夢を語り合い、「共通のふるさと」である諏訪圏の未来像を皆が共有することで「諏訪はひとつ」となるのです。そして我々が目指す諏訪圏域における夢ある住みよい自立都市へとつながると信じます。

2010年代運動指針

2010年代運動指針

地域と広域が共存共栄する、住民参画型のまちづくりを実践していきます。

また、様々な分野において諏訪圏域の広域的な可能性を模索し検証することで、各地域の特色や強みを活かした諏訪圏独自のまちづくりを創出し、住民・行政と共に将来の夢(未来像)を描いていきます。そして、「共通のふるさと」である諏訪圏の未来像を共有することで「諏訪はひとつ」を実現し、夢ある住み良い自立都市を目指します。

～2020年までの運動指針ロードマップ～

